

●演習ワークシート

演習日： 月 日

研修生番号：

研修生氏名：

事例 1

症例：1歳1か月，男児

昼頃からだるそうにしていた。15時頃昼寝中にけいれんが出現し救急要請。救急隊の情報ではけいれんは続いている。

バイタルサイン

体温	脈拍数	SpO ₂
39.8℃	172 回/分	100% (酸素 6L/分)

病院到着時。けいれんは続いている。眼球上転，口唇チアノーゼ，四肢強直。先週保育園で体重 10kg との情報あり。

演習課題 1

薬物以外の物品も含めて，来院までに準備すべき物品を検討してください。

演習課題 2

静脈路の確保が困難であるため，どのような薬剤を，どのような経路で投与するか述べてください。

●演習ワークシート

演習課題 3

体重 10kg として何mL の薬液を投与するか計算してみましょう.

① ミダゾラム筋注 0.3~0.5mg/kg

② ミダゾラム頬粘膜 0.3~0.5mg/kg

③ ミダゾラム鼻腔内 0.2mg/kg

④ ジアゼパム注腸 0.3~0.5mg/kg

※ジアゼパム 1A=2mL 10mg, ミダゾラム 1A=2mL 10mg

●演習ワークシート

事例 2

症例：2歳3か月，男児

けいれん重積後で一昨日入院。今朝から解熱していたが，10時頃けいれんしているとナースコールがあった。訪室すると間代けいれんを認めた。

バイタルサイン

体温	脈拍数	SpO ₂
39.8℃	172 回/分	100%（酸素 6L/分）

入院時の体重 15kg

ミダゾラムの 0.15mg/kg 単回投与で発作消失し意識も回復したが，その後2時間の間に2回同様のけいれん発作が群発。毎回ミダゾラム 0.15mg/kg で発作は消失した。

演習課題 4

まずすべきことは何かを述べてください。

演習課題 5

静脈路は確保されているため，どのような薬剤を，どのような容量で投与するか述べてください。

演習課題 6

以下について体重 15kg として何mL の薬液を投与するか計算してみましょう。

① ジアゼパム

② ミダゾラム

※ジアゼパム 1A=2mL 10mg, ミダゾラム 1V=10mL 10mg

演習課題 7

けいれん群発に対して、どのような薬剤を、どのような容量で投与するかを述べてください。

手順書

抗けいれん剤の臨時の投与（けいれん発作中のジアゼパムの経静脈投与）

【当該手順書に係る特定行為の対象となる患者】

1. てんかん（症候性含む）と診断確定している患者で、
2. 持続するけいれんが発生し、持続している場合

【看護師に診療の補助を行わせる患者の病状の範囲】

以下のいずれもあてはまる

- ☐ 低血糖が除外されている
- ☐ 心臓性失神が除外されている
- ☐ 血圧降下剤、徐脈誘発薬剤が、最近 2 週間以内に追加されていない
- ☐ 静脈確保および静脈内薬液投与が可能な状態である
- ☐ ジアゼパムのアレルギーがない
- ☐ 治療中の急性狭隅角緑内障がない
- ☐ 治療中の重症筋無力症ではない
- ☐ リトナビル（HIV 感染症治療薬）投与中でない

病状の範囲外

あてはまらないものがあれば、担当医師の携帯電話に直接連絡

病状の範囲内

【診療の補助の内容】

抗けいれん剤の臨時の投与（けいれん発作中のジアゼパムの経静脈投与、ジアゼパム 1 mL 経静脈投与して観察）

けいれんが持続する場合にはさらに 1mL 追加し、医師に報告

【特定行為を行うときに確認すべき事項】

- ☐ けいれんが消失しない
- ☐ 新たな神経症状の出現

どれか一項目でもあれば、担当医師に直接連絡

担当医師に直接連絡し、指示をもらう

【医療の安全を確保するために医師・歯科医師との連絡が必要となった場合の連絡体制】

担当医師：（携帯番号）

【特定行為を行ったあとの医師・歯科医師に対する報告の方法】

1. 担当医師の携帯電話に直接連絡
2. 診療記録への記載

【備考】診療の補助を行う際に必要な行為

1. 要員の確保
2. 心電図モニタ、経皮酸素飽和度モニタ装着
3. バッグバルブマスクの準備
4. 気道確保
5. 末梢静脈路確保